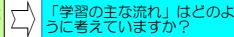
平成23年3月9日 第19号

学校教育係 「評価規準の作成のための参考資料」を活用しましょう。

学習指導要領や教科書を基に「ねらい」を吟味し教材研究に時間をかけたにもかかわらず、実際の授業では「ねら い」と「主な学習活動」がずれてしまったという経験はありませんか。こうしたことを防ぐためには、国立教育政策研究所 (国研)(平成22年11月)の『評価規準の作成のための参考資料』(以下「国研の資料」)が参考になると思いま す。そこで、小学校3年生の国語『ぼく・わたしの「すきなこと」「とくいわざ」』(学校図書)で、その活用例を紹介します。



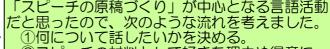
この教材では、学習指導要領の「A ・聞くこと」の指導事項「イ 相手や目的に応 じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立 丁寧な言葉遣いで話すこと」を身に付けさ せたいと思うのですが、どうでしょうか?







国研の資料では「話す・聞 <能力」の評価規準につい て、どのように書かれてい るか確認してみましょう。



- ②スピーチの材料として好きな理由や得意に なった理由などをカードに書く。
- ③スピーチの原稿を書く。
- ④4人程度のグループでスピーチの原稿の推敲 をした後、スピーチの練習をする。
- ⑤クラス全体で発表会をする。



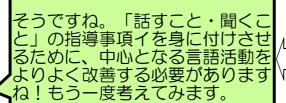


<評価規準に盛り込むべき事項>

- ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げ ながら筋道を立てている。
- ・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話し ている。

く**評価規準の設定例>**:国研の資料参照

あれっ!盛り込むべき事 項に「スピーチの原稿づ くり」はないですね。



〈設定例〉の中には、発表原稿を取 り上げている部分もありますが、図 表や絵、写真などを用いて説明する ような言語活動の記述が目立ちます 「スピーチの原稿づくり」にこ だわりすぎると、「B 書くこと」 の指導のようになりませんか?



まず、教師が図表や絵、写真などを使ってスピーチの手本を見せた後、児童に 自分で資料を選ばせながらスピーチの原稿を書かせます。そして、グループ内 でスピーチの練習をさせて助言し合うようにしてみます。



国研の資料で評価規準について確認したことにより「ねらい」と「言語活動」の整 合性を図ることができましたね!これなら、きっといい授業になると思いますよ。